

令和元年度 第2回大磯町総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和元年11月18日（月）
開会時間 午後2時00分
閉会時間 午後3時25分
2. 場 所 大磯町役場本庁舎4階第1会議室
3. 構成員 中 崎 久 雄 町長
野 島 健 二 教育長
トーリー 二 葉 教育長職務代理
曾 田 成 則 教育委員
長 嶋 徹 教育委員
濱 谷 海 八 教育委員
4. 事務局 森 田 敏 幾 参事（政策担当）
藤 本 道 成 政策課長
宮 代 雅 之 政策課政策係長
仲手川 孝 教育部長
宮 代 千 秋 学校教育課長
山 口 友紀子 学校教育課主幹兼副課長兼教育指導係長
5. 傍聴人 4人
6. 議 題
協議事項
(1) 「地域」と「学校」との関わり方について

7. 会議概要

【開会】

政策係長) ただ今から、令和元年度第2回大磯町総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、政策総務部政策課の宮代(雅)と申します。よろしくお願いいたします。

本日の総合教育会議は、「公開」での開催となります。傍聴を希望される方が会場に入っておられますので、委員の皆さんにおかれましては、あらかじめご了承願います。

それでは始めに、中崎町長からご挨拶申し上げます。中崎町長、よろしくお願いいたします。

【中崎町長挨拶】

中崎町長) 本日は、ご多忙のところ、令和元年度第2回大磯町総合教育会議に出席いただき、ありがとうございます。会議に先立ちまして、一言、ご挨拶させていただきます。

10月に、これまでの青山教育委員に代わりまして、濱谷教育委員が就任いたしました。濱谷教育委員におかれましては、本日が初めての総合教育会議となりますが、これまでのご自身のご経験などから忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

さて、本日の総合教育会議は、今年度、第2回目となります。前回の第1回の総合教育会議においては、「地域と学校との関わり方」をテーマに、現在、教育委員会で研究・検討を進めています「学校運営協議会制度」、いわゆるコミュニティ・スクールにおける取組みについて、教育委員の皆さんから様々なご意見を伺い、また、皆さんのコミュニティ・スクールへの思いというものを聴かせていただきました。ご意見の中には、「子どもたちが『主役』となる取組み」や、「子どもたちに多くの体験・経験をさせる取組み」を取り入れてはどうか。また、「コミュニティ・スクールが分かりにくい」といったご意見もありました。そのために、学校や地域とのまとまりが生まれるという観点から、「防災を突破口に進めてはどうか」といったご意見もいただきました。

本日は、前回、皆さんからいただきましたご意見を整理しまして、少し論点を絞った中で、更に深掘りしたご意見を、皆さんからいただければと思っています。

本日いただきました皆さんからのご意見につきましては、今一度整理しまして、最終的には、教育委員会へ投げ掛けていきたいと考えています。近隣を含めまして、多くの自治体で、このコミュニティ・スクールの取組みや検討が進められています。「大磯町でしかない」、また、「大磯町だからこそできる取組み」というものもあろうかと思っています。そのような観点も考慮していただき、本日も、自由闊達なご意見を伺えればと思っています。

短い時間ではありますが、本日も有意義な会議となりますよう、よろしくお願いいたします。

政策係長) 中崎町長、ありがとうございました。

それでは、議事に移らせていただきます。議事の進行は、大磯町総合教育会議要綱第4条第1項の規定により、「町長が議長となる」とされていますので、議事の進行につきましては、中崎町長にお願いしたいと思っております。

中崎町長、よろしくお願ひいたします。

【協議事項(1) 「地域」と「学校」との関わり方について】

中崎町長) それでは、議長を務めさせていただきます。議事が円滑に進むよう、皆さまのご協力をお願いします。会議次第に基づきまして、進めてまいります。

まず、次第にあります3の協議事項(1)「地域と学校との関わり方について」に入らせていただきます。

事務局から「第1回の総合教育会議での協議内容の振返り」と「本日の総合教育会議における協議の内容」について、資料を用意させていただきましたので、簡単に説明させていただきます、その後、皆さんからご意見などをいただきたいと思っております。

事務局、よろしくお願ひいたします。

政策課長) 政策課の藤本です。よろしくお願ひいたします。

それでは資料に基づき、前回の第1回総合教育会議の振返りと、本日の協議内容を簡単に説明させていただきます。前方のパワーポイントで説明をさせていただきます。お手元には、パワーポイントと同じ資料を用意させていただきましたので、どちらかをご覧くださいと思います。

まず、前回、第1回の総合教育会議の振返りです。

前回の第1回総合教育会議においては、平成28年度から協議してまいりました「信頼関係による学校づくりの実現」を目指しまして、「教員の質・能力を向上させる機会の確保」や、「子どもたちと向き合う時間の確保」についての、令和元年度の教育委員会での取組状況について事務局から報告をさせていただきました。

「教員の質・能力の向上への取組み」に関しては、団塊の世代の大量退職による教員の世代間格差を解消するという意味からも、スクリーンありますように「ファーストキャリアステージ教員研修」、「教員向けの研修『教育課題研修会』」、「日常授業の改善・充実のための幼・小・中相互訪問事業」、「大磯学びづくり推進事業」といった教員の質・能力を向上させる機会の確保のための様々な研修を実施しています。

その中で、「研修に参加する時間の確保などが困難である」との課題についても、事務局から報告させていただきましたが、それに対して「参観したい授業をビデオに撮り置きすることで、自分の空いている時間に自己学習ができるのではないか」というご意見や、「比較的時間に余裕のある夏休み期間を活用することで、積極的に研修へ参加し、子どもたちに教えるというプロとしての自覚を持ち自分の技を磨くことが重要ではないか」といった、更なる改善に向けたご意見をいただきました。

次に、「子どもたちと向き合う時間の確保への取組み」に関しては、教員の負担を軽減することで、子どもたちと向き合う時間を確保するという観点から、スクリーンにありますように、「スクールソーシャルワーカーの配置」、「教育支援員、指導協力員の増員」、「校務支援システムの整備」、「働き方改革への取組み」、「町立学校に係る部活動の方針の策定」といった教員の時間の確保に向けた取組みを展開しています。

その中で、更なる取組みの改善に向けまして、「スクールソーシャルワーカーの配置日数が増えたことはありがたいが、常設的な配置への検討を進めてほしい」といったご意見や、「教育支援員と指導協力員に関しては、年によって必要人数が変わるので、その年にあった十分な配置を要望する」といったご意見をいただいています。

働き方改革の取組みに関しては、令和元年度から「夏休み期間中の閉庁日を設定して実践しましたが、今後に向けて検証が必要である」というご意見、また、「教員自らが意識を持って取り組まなければ、働き方改革は進んでいかない。学校長のリーダーシップの下に取り組んでほしい」というご意見もいただいています。

「信頼関係による学校づくりの実現」に向けた「教員の質・能力を向上させる機会の確保」への取組み、また、「子どもたちと向き合う時間の確保」への取組みについては、今年度で終了となるものではありませんので、前回の会議でいただきましたご意見などを踏まえた中で、引き続き教育委員会において取組みを推進していただきたいと思えます。

続きまして、前回のもう1つの協議事項であります「地域と学校との関わり方」についてです。

前回は、「地域と学校との関わり方」という協議事項において、教育委員会で研究・検討を進めています「学校運営協議会制度」、いわゆる「コミュニティ・スクール」について皆さんに率直なご意見をいただきました。皆さんには、様々なご意見をいただきましたが、皆さんからのご意見をスクリーンにありますように、「コミュニティ・スクール導入の背景と現状」、「コミュニティ・スクールの必要性」、「コミュニティ・スクールの着眼点」、「コミュニティ・スクールへの期待」、「コミュニティ・スクールの具体的取組み」の大きく5つの項目に整理させていただきました。

まず、「コミュニティ・スクールの背景と現状」については、少子高齢化、核家族や共働き家庭の増加、そして、経済的な格差が生じているといった現状の中で、人と人との「つながり」が薄れてきており、「いじめ」や「不登校」の原因にもなっているのではないかと。また、インターネットやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などの情報通信手段の普及や多様化により生活の利便性が向上した一方で、相手の「顔」が見えない関係や、子どもたちの「姿」が見えにくい状況になっているのではないかとご意見をいただきました。

次に、「コミュニティ・スクールの必要性」については、地域の行事などに子どもたちが参加して、地域において子どもたちの「顔」が見える関係や、教員の地域への参加、また、それによって学校、家庭、地域の距離を近づけるためにも、コミュニティ・スクールによ

る取組みが必要であり、それらの取組みによって学校を取り巻く課題の解決や、子どもたちを大切に育てることにつながるといったご意見をいただいています。

次に、「コミュニティ・スクールの着眼点」については、コミュニティ・スクールでの取組みを進めるにあたっては、子どもたちが積極的に地域に参加することで、地域との「橋渡し」となり、子どもたちの「笑顔」が増える、子どもたちに良い効果をもたらすような、子どもたちが「主役」となる取組みを進めていくことが良いのではないかと。一方では、コミュニティ・スクールが分かりにくいという声を多く聞くといったご意見もいただいております。コミュニティ・スクールを地域や保護者の方々に理解していただくという意味でも、子どもたちや地域の方の「安全・安心」という観点から、すべての方に関係する「防災」を突破口として、また、「防犯」や「交通安全」といった分野からコミュニティ・スクールでの取組みを進めることで、学校はもちろんですが、保護者や地域の方とのまとまりが生まれ、自然とコミュニティ・スクールを理解していただけるのではないかとご意見もいただいています。

次に、「コミュニティ・スクールへの期待」についてですが、「学校」、「家庭」、「地域」の3者に良い効果が現れることが期待されており、子どもたちの体験学習や活動、大磯町独自の体制づくり、子どもたちが「笑顔」になるような取組みを、コミュニティ・スクールの中で進めてほしいといったご意見をいただきました。

最後に、「コミュニティ・スクールの具体的な取組み」については、前回の会議では、防災対策に関して議論が進んだこともありましたが、AED（自動体外除細動器）の授業での体験学習や、様々な場面を想定した子どもたちが主体の防災訓練の実施、また、防災マニュアルや安否確認システムの構築などといった、「体験する」、「実践する」といった取組みが挙げられました。

以上が、前回の会議で皆さんからいただきましたご意見となりますが、ポイントをまとめますと、スクリーンにありますように、「子どもが『主役』で『顔』が見える」、「『防災』などといった『安全・安心』な」、「様々な『体験』や『経験』ができる」、そして、「大磯町独自の取組み」を今後導入するコミュニティ・スクールにおいて取り上げていくことが、皆さんからのご意見であったと考えています。

それでは、本日の総合教育会議での協議内容ですが、ポイントに掲げさせていただきました取組みに絞りつつ、具体的な取組みについて、皆さんからご意見をいただければと思います。そして、皆さんからいただきましたご意見については、事務局で取りまとめたうえで、教育委員会、また、今後設置される学校運営協議会へ伝えていければと考えています。

前回の会議でもご意見としていただいておりますが、コミュニティ・スクールにおいても、「学校」、「家庭」、「地域」の3者に良い効果が現れることが期待されており、それと同時に3者が良好な関係を築くことで、信頼関係が更に充実したものになっていくと考えています。そして、コミュニティ・スクールを通じて、スクリーンにあるような「学校」と「家庭」が「地域」の中にあるという関係になるように、更に取組みを進めていければと考え

ています。

簡単ではありますが、前回の会議の振返りと本日の協議内容についての説明は以上です。

中崎町長) 事務局、ありがとうございました。

ただ今事務局から説明がありましたとおり、「学校」、「家庭」、「地域」の関係が、「地域」の中に「学校」や「家庭」にあるということを念頭に置き、大磯町の大きさや人間関係などを考えますと、3者がこのような関係にありたいと考えているところです。

まず、前回の第1回総合教育会議においては、平成28年度から協議してきました「信頼関係による学校づくりの実現に向けた取組状況」について、事務局から説明がありました。

「教員の質・能力を向上させる機会の確保」と「子どもたちと向き合う時間の確保」については永遠の課題であると考えていますが、これまでの総合教育会議での協議を踏まえて、教育委員会においては様々な取組みを進めています。しかし、完全に成果が得られているものではありません。取組みとしては、以前よりも充実した内容になってきていると思いますが、「教員の質・能力を向上させる機会の確保」に関しては、「参観したい授業のビデオへの収録」や「夏休みを活用した研修会への参加」、また、「子どもたちと向き合う時間の確保」に関しては、「スクールソーシャルワーカーの常時の設置」や、「教育支援員・指導協力員の十分な配置」、また、働き方改革については、今年から始めた「夏休み中の休業日の検証」や「教員自らが意識を持つ重要性」といったご意見をいただきました。

町としましても、教育委員会としましても様々な取組みを進めてまいりましたが、まずは、この件に関して、事務局からの説明に対する質問事項も含めまして、ご意見などがありましたらご発言いただければと思います。

野島教育長) 前回の振返り中で働き方改革の取組みについてのご意見がありました。前回の総合教育会議が開催された後に地域とのふれあい会議というものが開催されまして、働き方改革に関係する話が出ていましたので、お話をさせていただきます。

ふれあい会議とは、大磯中学校のPTAの主催により行われた学校の教職員、地域の方々、また、生徒も参加した集まりで、教育委員の皆さんも参加されたと思います。

今回のふれあい会議は部活動についての話合いが中心となりまして、働き方改革の成果が現れているのではないかという意見が出ていましたので、少し紹介します。

生徒からは「週に2回の休みがあると、部活動と他の生活とのバランスが取れる」、「習い事の時間が取り易くなる」、「友達との時間が持てる」といった意見がありました。まだ始めたばかりではありますが、成果が現れているのではないかということで紹介させていただきました。同じように、国府中学校や両小学校においても夏休み期間中の閉庁日を設けていまして、教員も休暇を取れるようになり、少しずつ徐々にではありますが、成果が上がりつつあると感じています。

中崎町長) 教員と児童生徒との時間を確保する取組みとして、これまで教育支援員などを拡充

するなどの対応をしていますが、今回の部活動に係る取組みに関しては、子どもたちや保護者は納得しているのでしょうか。

野島教育長) ただ今申し上げましたとおり、生活し易くなったという子どもたちがいる一方で、もう少し部活動を行いたいという意見もありました。これらの課題に関しては、今後調整していかなければならないと考えています。

中崎町長) 働き方改革の取組みについては、効果が現れつつあるという野島教育長からの報告でした。

この他にご意見がないようでしたら、次に進めてまいります。

中崎町長) それでは、「信頼関係による学校づくりの実現に向けた取組み」については、引き続き更なる改善に向けて、教育委員会で取り組んでいただきたいと思います。

中崎町長) 次に、「地域と学校との関わり方」に移ります。

前回の第1回総合教育会議においては、「地域と学校との関わり方」をテーマに、学校運営協議会制度、いわゆるコミュニティ・スクールにおける取組みについて、皆さんに協議していただきました。

前回の第1回総合教育会議の内容の振返りのところで、事務局から説明がありましたが、前回の会議で皆さんからいただいたご意見を、スクリーンの10ページのとおり5つの項目に整理しました。そして、更に絞り込みまして、スクリーンの18ページのとおり4つのポイントにまとめています。

本日は、この4つのポイントに絞りまして、皆さんから具体的にご意見をいただければと思います。事務局からの説明に対する質問事項も含めまして、ご意見などがありましたらご発言いただければと思います。

濱谷教育委員) 新しく教育委員になりました濱谷です。これまでの経験を生かしながら、コミュニティ・スクールをどのような形で進めていけば良いのかということ、私なりに調べてまいりました。

まずは、文部科学省のホームページを見まして、「コミュニティ・スクールとは何か」というところから見始めました。その中で、コミュニティ・スクールの設置状況を見ますと、過去最高の7,601校に設置しているということでした。まさしく地域と学校との連携体制を構築するために欠かせないものが、コミュニティ・スクールであるということを理解しました。一方で、コミュニティ・スクールとは何かということの説明することは、大変難しいということが分かりました。私も地域の方に対して、コミュニティ・スクールを進めていくことを説明するとなると、簡単に言うと「地域と共同体が一緒になって学校を作る」ということになると思います。昭和時代の学校をイメージしていただくと、コミュニテ

ィ・スクールが理解できるのではないかと思います。それでは、なぜ昭和時代の学校のイメージが消滅していったのか、没落していったのかということと考えますと、やはり第1回目の総合教育会議でも議論されていましたが、ツイッターやメールといったSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）が普及してきたことで、「顔」が見えないつながりというものが生まれてきたことに原因があるのではないのでしょうか。そのような中で、「顔が見える教育」、「顔が見える人間関係」、「顔が見える地域」を作っていくことが、コミュニティ・スクールを作っていくことにつながっていくと思います。防災を切り口としてコミュニティ・スクールを考えていくというお話がありました。第1回目の総合教育会議の中で、そのようなことが議論されたのであればお聞かせいただければと思います。

中崎町長） 濱谷教育委員から「顔が見える地域」というお話がありました。先ほど少し申し上げましたが、大磯町の人口は約31,000人であり24の地区があります。それぞれの地区で独自の強い人間関係が築かれています。その中では、子どもたちの顔がなかなか見えてこない状況にあります。多くの地区では年配の方々が中心となって、若い方々と一緒になって活動していくという段階にあります。防災に関しても比較的高齢の方々が中心となっていますが、このような状況を不安視した曾田教育委員が、一歩踏み込んで子どもたちの防災における役割を考えていけば、地域の中で力を合わせて活動していけるのではないかとのご提案であったと思います。第1回目の総合教育会議では時間が足りなかったということもあり、具体的な議論まで進んでいません。

曾田教育委員は、いかがでしょうか。

曾田教育委員） 本日の総合教育会議は、前回協議した内容をもう少し掘り下げて議論していく会議だと思っていますので、後ほど発言させていただきます。

長嶋教育委員） 町では新たな総合計画の策定の準備を進めているようですが、それに併せて教育に関するプランも策定していると記憶していますが、本日は、それらの計画の基本となるような内容を協議していくということによろしいのでしょうか。

中崎町長） 町では、町の進む方向性を総合的に示した総合計画を策定しています。その中に教育分野も含まれており大きな柱でもありますので、将来的には、そのような議論があっても良いと思います。総合計画の話が出ましたので、町の将来的な方向性について事務局から説明させます。

政策課長） 町では、令和3年度を初年度とする第五次総合計画の策定に向けて、政策課を中心に準備を進めています。新たな総合計画は10年後を見据えた計画となります。総合計画は町の最上位の計画であり、町全体の計画となりますので、本日の総合教育会議で皆さんに協議していただいています。「コミュニティ・スクール」については、総合計画の教育分野

の中に位置付け、新たな総合計画においては核となる取組みになるのではないかと考えています。

中崎町長) コミュニティ・スクールの取組みを、防災を中心に進めていくことはひとつの切り口であり、本日は具体的なお意見をいただけていると思っています。全国では既に約7,600校でコミュニティ・スクールがスタートしています。拙速という訳ではありませんが、「大磯らしさ」、「大磯の独自性」、「大磯の実情にあった」ものにしていきたいという想いがあります。

トリー教育長職務代理) 事務局でまとめた参考資料については、良くまとまっていると思います。

先ほどからお話が出ていますが、大磯町は地域の方々の関心が強い町であり、それは非常に良いことであると思います。特に安全面においては、パトロールや子どもたちの見守りを行っていただいております。大変感謝しています。しかし、関心が強いということは、当然に批判も出てきます。学校のカリキュラムや時間の問題もありますので、なかなか時間を取ることは難しいと思いますが、学校と地域の方々との交流の場をもっと増やして、ざっくばらんに腹を割ってお互いに話せる環境が増えると良いと思っています。

また、コミュニティ・スクールの取組みについて、防災を切り口として進めてはどうかという話が、先ほども前回の総合教育会議でも出ています。参考資料の17ページにもあります子どもたち主体の防災訓練については、普段の授業がある日にカリキュラムを割くことは難しいと思いますので、ひとつの提案ではありますが、かつては夏休みに一斉登校日というものがあったと思いますが、そのような夏休み期間中の一斉登校日があっても良いと思っており、一斉登校日に地域の方々にも参加していただき、子どもたち主体の仮想的な防災訓練を企画しても良いのではないかと感じています。

また、中学校の給食はこれからですが、小学校には給食の時間がありますので、例えば年に1回でも防災の日のような日を設けて、防災食や非常食を使った給食を体験する機会があっても良いのではないかと思います。今の時代は非常に恵まれています。有事となった場合はこのような食事を食べることになるということを経験することも必要であると考えています。高学年の児童は頭の中では理解できていると思いますが、低学年の時から行えば食育の一環にもなりますし、有事の際には、このような非常食を食べなければならないということを経験することも、おもしろい取組みではないかと思います。

AED(自動体外除細動器)については、前回の総合教育会議で提案させていただきましたが、中学生の保健体育の授業で取り入れても良いと思いますし、夏休みの一斉登校日などを利用して、できるだけ多くの子どもたちに体験させることもおもしろい取組みであると思います。

中崎町長) 夏休みに一斉登校日を設けることは可能なのでしょうか。

学校教育課主幹) かつては夏休み中の教員の給料日に一斉登校日が設けられていた時代もありましたが、現在は、夏休み期間中は子どもたちを家庭や地域にお返しするという趣旨で一斉登校日は設けていません。

トーリー教育長職務代理) 子どもたちを家庭や地域にお返しするという趣旨は分かりますが、普段の学校に通っている時に時間を割くことが難しいので、地域のコミュニティという目線で見れば、そのような日が1日ぐらいはあっても良いと思います。

また、先日の11月9日(土)に大磯港で津波対策訓練が開催されました。拝見させていただき大変素晴らしい訓練でした。このような大規模な訓練は、毎年、大磯町で開催されるものではなく貴重なものですので、忙しいかもしれませんが、中学生といったこれからの時代を担う世代の子どもたちにも見て貰いたいと思いました。このような特別な日には、部活動を休みにしても参加させるような配慮も必要であると感じました。

中崎町長) あまりカリキュラムに制限されることがない形での防災訓練も必要であると思います。地区の防災訓練を見ますと、大人の役員の方々が主となり実施しているのが現状ですが、全町的にすべての町民の皆さんが参加する防災訓練もありますので、その中で、どのように子どもたちの活動をマッチングさせていくのかということが、今後の課題でもあります。皆で参画するといった精神は良いことであると思いますので、考えていきたいと思っています。

濱谷教育委員) 今のトーリー教育長職務代理のお話に関連しますが、現在の小中学校の防災訓練の現状は、どのようになっているのでしょうか。

学校教育課主幹) 各学校で様々な目的、例えば地震や火災、また、不審者への対応などの防犯に関しても、その目的に応じて年に数回の訓練を実施しています。小学校、中学校、また、幼稚園という違いはありますが、子どもたちは「何かあれば逃げる」といった行動に関しての学習は進めています。

濱谷教育委員) 学校での行事、いわゆるカリキュラムの中で防災訓練を実施しているということでもよろしいでしょうか。

学校教育課主幹) そのとおりです。特別活動の中で実施しています。また、小中学校、幼稚園、保育園において、年に1回の一斉引渡し訓練を実施しています。保護者に子どもたちを引き取りに来ていただき、その帰り道で通学路の安全点検を行うといった一大行事です。

長嶋教育委員) 近年は自然災害が多く防災対策の重要性が叫ばれている中で、町の組織として

の危機管理における学校の位置付けというものは、どのようになっているのかお聞かせいただきたいと思います。

学校教育課主幹) 子どもたちが学校にいる時間と、学校から家庭や地域に帰っての時間の2通りに分けられると思います。学校にいる時間については、学校長が子どもたちの安全を守るという意味で、各学校ともマニュアルがありますので、それに則って子どもたちの安全を守り責任を持ってお預かりしています。家庭や地域に帰った場合は、寝ている時間も含まれますと1日の中でも学校にいる時間よりも長い時間となりますので、地域における子どもたちを守るためのルールが必要であるということになるかと思えます。今回のコミュニティ・スクールの検討・研究の中で、防災をテーマとしていきたい理由のひとつとしては、地域における子どもたちを守るためのきちんとしたルールづくりを進めたいということもあると思います。

先日、第1回目の大磯町コミュニティ・スクール推進協議会を開催しましたが、各学校ともに、学校と地域とのそれぞれの役割がまだ明確になっていない部分に戸惑いを感じているようです。学校長自身も地域の役割が分からないことが心配であり、その点を整理できればコミュニティ・スクールが上手く機能していくのではないかと考えています。

長嶋教育委員) コミュニティ・スクールの中に警察のOBなどにも参加していただき、体制をしっかりと整えたうえで、実際に運営を担う現場の方々が自分たちで考えていかなければ、良い方向には進んでいかないという心配はあります。

中崎町長) 町の防災対策という大きな観点から考えますと、長嶋教育委員のご指摘にもありましたが、子どもたちが学校にいる時間は学校が責任を持って子どもたちを守るということに異論はありませんが、町全体や地域として、また、1日24時間という時間で考えた場合、どのように子どもたちを守っていくのかということは今後考えていく必要があります。

教育委員会では、子どもたちが学校にいる時間に関しては、しっかりと考えて貰っていると思っています。

中崎町長) 防災は、地域と学校との関わり方の要点ではありますが、議論が少し防災に特化してきていますので、防災を中心としたコミュニティ・スクールの取組みをどうしていくか。子どもたちが学校にいる時間も地域にいる時間も含めまして、地域との関わりというものを守るのみではなく、様々なことを学び、地域の人たちとふれあう機会を作るといった観点からご意見をいただければと思います。

曾田教育委員) そうは言いますが、防災を提案した手前もありますので、少し防災の観点から話をさせていただければと思います。

11月9日(土)に神奈川県と大磯町の主催で、大磯町では初めて津波対策訓練が実施さ

れました。私はこの訓練に大変期待していきまして、結果を伺ったところ大変立体的に行われたということで嬉しく思っています。これを突破口、きっかけにしなければコミュニティ・スクールの取組みを進めることは難しいと思っています。コミュニティ・スクールは地域との関わりがありますので、防災を通じて地域との信頼へとつながっていくと理解しています。

先般、台風第15号と第19号が関東地方に上陸し、甚大な被害をもたらしました。従来の台風は、九州地方へ上陸することが多く、関東地方に接近することは多くはありませんでしたが、最近では近畿地方や千葉県を直撃するなど、状況が少し変わってきています。地球温暖化の影響であるかどうかという詳細はわかりませんが、台風の大きさや進路などが変わりつつあることを認識しなければならないと思っています。特に最近の災害は、今まで関心が低かった水害が中心となりまして、河川の氾濫といった被害が多くなってきました。このような状況から災害に対して、今一度原点に戻って考え直さなければならないと思っています。

平成8年3月29日発行の「大磯町史9（別編：自然）」には、大磯町が古来、どのような災害に遭ったのかということが記載されています。これを調べてみますと、政権の拠点の近かった鎌倉時代や江戸時代の古来の記録が残っています。順に話しますと、箱根や富士山、伊豆大島の噴火や、各地の地震について記載されています。水害では、金目川（花水川）や小田原市を流れる酒匂川の記録が残っています。大磯町が水害で大きな被害に遭ったという記録はありません。先般の11月9日の訓練は津波対策訓練でしたが、これは東日本大震災を踏まえた訓練であったと理解しています。津波も水害でありますので、その点も含めた、水害に対する総合的な防災訓練を実施しなければならない時期にきていると思っています。

それでは、これからコミュニティ・スクールの取組みをどのように進めていくかということですが、大磯町においては既にコミュニティ・スクールの形がある程度できている気がしています。私は、今年は国府中学校の地区懇談会に出席しました。生徒は参加していませんでしたが、保護者や地域の方が地域ごとに参加して、交通安全や防犯対策などが話し合われ、非常に充実した内容の懇談会でした。様々な話がでた中で、新たな方策については、詳細なマニュアルを作るということではなく、どのように考え、どのように行動に移していくのかということを考えていく必要があると思います。5年間続けている一斉引渡し訓練についても、少し気持ちが緩んでいるような気がします。何事にも真剣に取り組めるように組織を見直して、意見を出し合いながら進めていくことができると日々考えています。そのためには、防災をきっかけにして突破口として、地域におけるまとまりを作って、地域の皆さんの意見を聴きながら、地域の皆さんの安全安心や、子どもたちの成長に取り組むことで信頼関係を構築し、豊かな大磯町にしていければと思っています。自然に恵まれており、様々なことが上手くいっている大磯町ですので、コミュニティ・スクールでの取組みが、何に役立てることができるのかということを考えていきたいと思っています。

中崎町長) 前回の総合教育会議における協議内容を深掘りしていく中で、様々な取組みを絡めることで、大磯町の教育というものを考えていく必要があるというご意見であったと思います。

長嶋教育委員) 社会環境が著しく変化する中で、これからコミュニティ・スクールが必要とされてくるのではないかと考えています。大磯町は、やはり自然が豊かで文化や歴史の残る素晴らしい町です。そのような中で、子どもたちが主役で顔が見える、子どもたちに体験をさせるということは良いことであると思います。現在、お祭りなどの昔ながらの活動が地区単位で行われていますが、時代の流れの中で、少子化により子ども会などもなくなり、活動が困難な地区も出てきています。そのようなことを考えますと、新しい組織が必要になっているのではないかと感じています。

私も先般の国府中学校の地区懇談会に出席しましたが、石神台地区は新しい住民が多く昔ながらの組織というものはないのですが、ハロウィンなどのイベントを通じて、地域の交流の場を住民に提供しているようです。そのような催しから少しずつ地域の活動を見直すことも必要であると感じています。今、町内では文化祭が開催されていますし、郷土資料館では鳴立庵の企画展が行われています。あれだけ立派な歴史的資源が残っています。鳴立庵は日本三大俳諧道場のひとつであり、他は京都府と滋賀県で首都圏では大磯町が唯一です。そのような歴史的資源を活用した町おこし、例えば、鳴立庵で行われている俳句についてはテレビでもよく取り扱っており、小学生、中学生、高校生が親しむ機会もありますので、年に1回の大磯西行祭だけで終わらせるのではなく、そのような文化的な資源を掘り起こして、1年を通じて大磯町を発信することができればと考えています。

中崎町長) コミュニティ・スクールの取組みのきっかけとして、防災だけではなく自然や歴史文化という地域資源を活用してはどうかというご意見をいただきました。

日本三大俳諧道場のひとつである鳴立庵で毎年開催されています大磯西行祭には、インターネットを使って全国から多くの小中学生が応募してきています。また、町内の小中学校においては俳句の指導も行っています。

子ども会については、かつては町内の全地区にありました。現在はほとんどない状況ではありますが、子どもたちが町に参画できる形を作ることができるかもしれませんので、考えていきたいと思っています。

濱谷教育委員) 防災という切り口は非常に良いと思いますが、防災からは少し離れまして、私は「学び」をコミュニティ・スクールのひとつの柱にすべきであると考えています。神奈川県知事は「未病」や「人生100年」という言葉を使っています。大磯町の教育大綱には、『いのち』『こころ』自ら可能性を求め、新しい時代を心豊かに生きる人づくり」という基本理念があります。これからの大磯町を作っていくのは子どもたちです。大磯町には大

磯高等学校もありますので、大磯高等学校も巻き込んで進めてはどうかと思っています。子どもたちが人生100年をどのように生きていくのかという彼らのライフプランを作る手助けを、大人たちが指導していくという取組みもおもしろいと思います。まさに子どもたちの生涯学習であり、大人たちの生涯学習でもあります。

中学生や高校生になりますと、学校の先生や塾の先生といった決まった大人とのみ関わることが多くなりますが、やはり地域の大人たちとふれあうことが大事なことだと思っています。

なぜ、そのようなことを考えているのかと言いますと、やはり女性にとって魅力のないコミュニティは廃れていってしまうという感覚を持っています。女性の方から「大磯町は素晴らしい町である」と言われるコミュニティを作ることができれば良いのではないかと思います。そのようなことを考えますと、最終的には「子育てに最適な町」につながると思っていますので、女性の視点に立ったコミュニティというものを考える。当然、その場合にも子どもたちがキーワードになりますので、そのようなことを考えるコミュニティ・スクールがあっても良いのかと思っています。

我々は今、多様なライフスタイルを大切にしていくという考え方を持っていますので、中学校にしても高等学校にしても大学にしても、入学試験が様々な方法で実施されています。一時、私立中学校では、英語のみの入試や適性試験のみの入試など、ユニークな入試方法を採用する中学校が増えていました。これらの入試スタイルを業界用語では色物入試と呼んでおり、生徒募集が困難な学校がよく採用していました。しかし、今では色物入試ではなく、子どもたちの多様性やライフスタイルを大切にしたい入試へと見方が変化しています。例えば、水泳がその学校で大切であれば水泳を入試の科目にしても良いでしょうし、数学や国語の1科目でも良いでしょうし、自己アピールのみの入試があっても良いと思います。これからは、そのような入試へと変化していくのであろうと思っています。そのようなことを考えますと、コミュニティ・スクールもそのような時代の流れに視点を合わせた形で作り上げていっても良いのではないかと感じています。このような話をしますと、「何のためにするのか」、「誰かが何とかしてくれるのか」と疑問を投げ掛けられますが、そうではなくて「自分たちの力で地域を作り上げていく」ことが重要になってくると思っています。そうしますと「誰がやるのか」、「学校の先生がやってくれるのか」、「行政がやってくれるのか」という議論になってきますので、そこには「地域コーディネーター」が必要になると考えています。学校と地域を結び付ける地域コーディネーターが連絡調整を進めていく。そのためには、お互いが共通の認識を持つことが必要であり、その役割を担うのがコミュニティ・スクールという組織であると考えています。多様性という言葉を使いましたが、義務教育学校としての特色を打ち出していくことを考えた場合、小中学校の9年間で大磯町独自のカリキュラムを作って取り組んでいく必要があると思いますし、10年後を見据えた場合に、小中一貫教育という発想も出てくるのではないかと考えています。

大磯町教育大綱の基本目標には「知力」、「体力」、「共感力」とあります。3つの力「3力（魅力）」があります。この3力（魅力）を子どもたちに身に付けてほしいし、身に付

けさせたい。それをコーディネートするのが地域の大人たちであり、地域コーディネーターです。そのようなコミュニティ・スクールを、地域の大人たちと地域コーディネーターとの手で作り上げていくことができると思っています。学校の先生の手を煩わせるのではなく調整役は地域コーディネーターが担い、コミュニティ・スクールを作り上げていくという発想を持っています。曾田教育委員からお話のあった防災に関しても、同じような考え方ではないかと思っています。

中崎町長) コーディネーターの重要性についてお話いただきました。そのコーディネーターを誰が担うのかということがポイントであると思います。

これまでの各教育委員のお話を受けまして、教育委員会として何か気になった点はありますか。

野島教育長) どのように学校、保護者、地域をつないでいくのかということが、大きな課題であると認識しています。防災に関しては、大磯町では自主防災組織による活動がかなり進んでいると思っています。先般の台風第15号、第19号の際も活躍されました。

学校に関しては、通常の子どもたちが学校にいる授業中は、火災に対する避難訓練や地震に対する避難訓練を当然のごとく実施しています。しかし、問題は子どもたちが学校と家庭の間を動いているとき、典型であるのは登下校の時間帯です。この時間帯には、交通安全対策という点で多くの地域の皆さんが関わってくれており、コミュニティの賜物であり、すごく先を行っている取り組みであると思っています。一方、防災対策に関しては、子どもたちの登下校中や、地域にいる時に災害が発生した場合には、どのように対応するのかということを地域の中で話し合うことができれば、子どもたちの置かれている状況も定まってきますし、地域の役割も決まってきます。

先日、神奈川県内の教育長が集まる会議がありまして、台風第15号と第19号への対応状況などを聴く機会がありました。大磯町も約600人の避難者があり、急きょ避難場所を追加で開設するなど大変でしたが、そこでの話をいくつか紹介しますと、これまでは地震を中心した避難訓練が行われており、水害に対する感覚を持っておらず、河岸段丘の上にある学校を急きょ避難場所として開設した自治体や、想定を超える人数の避難者に対処するために、急きょ学校の管理職を呼び出して対応した自治体もあったようです。その中で、避難するために来ていた中学生が活躍していたという話がありました。避難場所が通っている中学校で、使い勝手が分かっていたので活躍できたようでした。このような場面でも、子どもたちが活躍できるのだということを改めて実感しました。このようなことを突破口として、上手く子どもたちが活躍する場所にしていただけると、学校のカリキュラムを変更するよりもスムーズに進んでいくと感じています。話は逸れますが、どの避難場所も想定を超える多くの方が避難したため、大型犬の扱いに苦慮したとのこと。そのようなことも踏まえまして、防災訓練や避難場所に対する考え方を変えていかなければならないと思っています。この間を埋めるものがコミュニティ・スクールであり、研究を進める価値

値があると考えています。

コミュニティ・スクールの枠組みも、小学校のみの小さい枠組みではなく、小学校と中学校を併せた、大磯町では大磯地区と国府地区という枠組みで進められればと個人的には考えています。

曾田教育委員) 今年国府中学校の地区懇談会に出席して生沢地区の方とお話をしましたが、学校の先生と地区役員の方との避難の考え方が違うということに気がきました。例えば、生沢地区の役員の方々は、車椅子の方が避難できるようにおおいそ学園を避難場所にしたいと話していましたが、学校の先生は避難場所として開設しないと話しており、まだまだ意見の違いがあります。これらの課題をどのように調整すれば良いのか。また、子どもたちの学校内と学校外での避難行動の方法も明確になっていないということもあります。今後は、それらの課題の調整を進めていかなければならないと感じています。詳細なマニュアルを作るというのではなく、大まかに地震と風水害を想定した中で、車椅子の方の対応などを考えていければと思っています。

トリー教育長職務代理) 前回は指摘させていただきましたが、コミュニティ・スクールという言葉が分かりにくいということがあります。日本語に訳しても学校運営協議会制度となりまして、地域の皆さんにも非常に重たく聞こえる感じがします。運営協議会という責任が大きいというイメージを持たれてしまうような気がします。そのようなこともありますので、「コミュニティ・スクールとは、こういうものです」ということの紹介を、定期的でなくても構いませんので、広報紙などで周知することを考えてはどうかと思います。既にコミュニティ・スクールを紹介する広報を行っている市町村があるようですし、意外と反響もあるように聞いています。私もコミュニティ・スクールについて色々調べてみましたが、課題も多いようです。大磯町ではコミュニティ・スクールという言葉で表さなくても、学校と地域との関わりを見ますと、ある程度の形はできていると思いますので、マニュアルなどで縛るよりも、臨機応変に対応していく必要もあると思っています。地域の皆さんと話し合える場が多くて多すぎることはないと思いますので、多くの機会を持たらと思いますし、コミュニティ・スクールがあまり知られていないということもありますので、保護者の意識を変えていく必要もあると思います。

また、先ほど子ども会のお話が出ていましたが、地区の子ども会も少なくなっており、大磯町子ども会育成団体連絡協議会も解散するという事も聞いており、かつて携わっていた立場として非常に残念に思います。しかし、地区の行事には子どもたちは参加していますので、何か子どもたちがワクワクしながら、しかも学べるような具体的なイベントなどを考えていければと思っていますし、そのようなイベントについても先ほど話しました広報などで発信できると思います。

濱谷教育委員) 私も情報発信については考えていることがあります。大磯町にはメディアを専

門にしている方など、素晴らしい町民の方がたくさんおられます。そのような方々に協力していただきまして、幼稚園や保育園から中学校までの1年間の行事や、郷土資料館や図書館のイベントを取りまとめた行事のカレンダーを、中学生に作らせることができないかと思っています。各学校の行事は各学校で分かりますが、他の学校の行事は把握していないのではないのでしょうか。しかし、このコミュニティ（行事）カレンダーがあれば、大磯町の子どもたちが、他の学校などの行事が分かるようになります。すぐにはできないかもしれませんが、呼び掛けることに意義があると思っています。

トリー教育長職務代理) 大磯町には大磯宿場まつりもありますし、子どもたちを参加させて楽しませて地域の方々に顔を覚えて貰う。子どもたちの顔が見えるという意味でも何かできることがあるのではないのでしょうか。

濱谷教育委員) 子どもたちが大人になって、例え町外に出ていったとしても、大磯町に帰ってきて貰うことが大切であると思います。

長嶋教育委員) 行政にはそれぞれを担当する課がありますので難しい面もあると思いますが、公園で遊んでいる子どもは少ないのですが、学童保育や放課後子ども教室では、学校のグラウンドで元気一杯に遊んでいる子どもたちはたくさんいます。そのようなことを考えますと、学校施設をもう少し自由に柔軟性を持って利用できるように、子どもたちが活動しやすいようにしていただければと思っています。

濱谷教育委員) カレンダーを製作する予算がなければ、子どもたちが企業を廻って寄付金などを集めても良いのではないのでしょうか。寄付金をいただけた企業には、協力者として企業名をカレンダーに掲載するようにすれば、協力していただける企業はあると思います。

遊び的な感覚で子どもたちに教えることが重要であり、企業を廻ることで資金の集め方やお金の考え方も教えることができます。色々な発想を持って、学校ではできないことをコミュニティ・スクールが担う。それが大磯町らしいコミュニティ・スクールであると考えています。

中崎町長) 皆さんが、子どもたちのことを本当に真剣に考えて発言される顔を見ていますと、本当に嬉しそうに発言されていたので、本日は非常に素晴らしい会議でした。

これまでの皆さんの意見を伺っていますと、防災対策があり、大磯町の自然や文化・歴史があり、学びというご意見もありました。それらのご意見のすべてにとって大切なものは、やはり情報発信ではないかと思っています。どのように情報を発信していくのかということ、しっかりと考えていかなければならないと思っています。

これまでの協議を踏まえて、事務局から何かありますでしょうか。

教育部長) ただ今、教育委員の皆さんから子どもたちを主体とした様々な取組みについてのご意見をいただきました。各地域のコミュニティ・スクールが立ち上がりましたら、構成員の皆さんには、コミュニティ・スクールに関して詳細に説明することになると思います。今までは、何か課題があると学校や校長に要望して、それを学校が対処していましたが、コミュニティ・スクールが立ち上がることで、あくまでも学校の先生方は、子どもたちの教育や学力向上などの課題に特化して、お話のあった情報発信などについては、地域に適任の人材がおられれば地域コーディネーターを通して役割を担っていただく。そのように学校と地域のそれぞれの役割を共有していく。コミュニティ・スクールが立ち上がれば、そのような話し合いをしていただくことになると思います。

10月にコミュニティ・スクール設立の準備会である、第1回目のコミュニティ・スクール推進協議会を開催しましたが、委員の皆さんにも戸惑いはあるようです。総合教育会議では、防災対策などの様々なアイデアをいただきましたので、今後のコミュニティ・スクール推進協議会にフィードバックしていきたいと考えています。

中崎町長) どうもありがとうございました。

ただ今、皆さんからいただきましたご意見を事務局で整理させていただき、次回の総合教育会議において皆さんの了解をいただいたうえで、教育委員会には示してまいります。

それでは、協議事項(1)「地域と学校との関わり方について」は、終了させていただきたいと思います。

これで、本日の協議事項はすべて終了しました。ご協力ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しします。

政策係長) 中崎町長、ありがとうございました。

それでは、「4. その他」に移らせていただきます。委員の皆さんから何かありますでしょうか。

ないようでしたら事務局から1点、ご連絡させていただきます。

政策課長) それでは、今後の予定をお知らせいたします。

本年度の総合教育会議は本日で終了とさせていただきます。次回の会議については、令和2年度に入りまして6月から7月頃に開催させていただく予定です。

今回は、本日の協議事項(1)で協議していただきました「コミュニティ・スクールにおける取組み」について取りまとめたものを示させていただくとともに、「信頼関係における学校づくりの実現に向けた取組状況」についても、ご報告させていただく予定です。また、新たな協議事項についても、事務局からご提案させていただくことを考えています。日程などの詳細については、後日改めて調整させていただきます。

なお、今年度、令和元年度中に、児童・生徒の生命・身体に被害が生じた場合、また、生じるおそれがある場合など、緊急事態が発生した時には、皆さんには緊急にお集まりい

ただ、場合がありますので、ご承知おきいただきたいと思います。

以上です。

政策係長) それでは、これもちまして、令和元年度第2回大磯町総合教育会議を終了いたします。

本日は、長時間に亘り、ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

(以上)